

うつのみや人づくりビジョン策定懇談会（第3回）会議録

日時 平成16年7月28日（水） 午後1時30分～午後3時30分

場所 市役所 教育委員室

出席者

〔委員〕太田周，青柳宏，中村正之，小林順子，若林治美，安久都和夫，遠藤敏幸，
毎澤典子，高橋克知，藤沼千春，麦倉仁巳，船津祥，佐々木英明，渡辺映子，
赤羽根肇，栗坪容子，石井智子，加藤英典

〔事務局〕教育次長，教育次長（学校担当），総務担当主幹，教育企画課長，
学校教育課長，学校管理課長，生涯学習課長補佐，文化課長，
スポーツ振興課長，教育センター所長，ほか7名

公開・非公開の別 公開

傍聴者 0名

会議経過

1 開会

2 報告事項

(1) 第2回会議録の確認について

3 協議

(1) 家庭の教育力の低下と今後の「家庭」や「地域社会」，「学校」の役割について（本市教育の課題整理に係る追加資料）

(2) 今後の社会変化と身につけたい資質能力について

(3) 基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための方策について

(4) 次回会議日程について

4 閉会

会議の結果

1 報告事項

(1) 会議録について

報告資料1「第2回会議録」をもとに，事務局より説明し了承を得た。

2 協議事項

(1) 家庭の教育力の低下と今後の「家庭」や「地域社会」，「学校」の役割について

協議資料1「家庭の教育力の低下と今後の家庭や地域社会，学校の役割について」
をもとに，事務局より説明。その後，意見交換を行った。

(2) 今後の社会変化と身につけたい資質能力について

第1回会議資料「今後の社会変化と身につけたい資質能力」をもとに、事務局より説明。その後、意見交換を行った。

(3) 基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための方策について

協議資料2「基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための目標と方策」をもとに、事務局より説明。その後、意見交換を行った。

(4) 次回会議日程について

第4回懇談会の開催日時について協議し、8月27日(金)午後1時00分から開催することとした。

発言の要旨

1 家庭の教育力の低下と今後の「家庭」や「地域社会」、「学校」の役割について

青柳委員 : 家庭の教育力の低下が叫ばれているが、一方では、少子化などの影響により、親の関心が子どもの教育にこれほど高い時代もないのではないか。幼稚園に行く機会があるが、年々子どもが大人の言葉や態度に敏感になっていて、萎縮しているように感じる。家庭の教育力を高めるだけでなく、子どもがのびのび成長できる社会であることも重要ではないか。

小林委員 : 臨床心理士として相談を受けているが、これまで想定されなかった家族の形態も想定し、議論する必要があると感じている。母親が離婚し、実家に戻り叔父が父親の役割をしているような事例もある。家族形態の多様化に伴って「家庭」「地域」「学校」を機能として考え、それぞれの役割をどのような形で補完できるのかを議論することが必要である。例えば、子どもが育つための機能として地域を考えると、その役割は「子どもが自分を自由に表現できる場の確保」「生きるモデルとなる様々な大人の有り様」などとなるのではないか。

中村委員 : 地域社会の役割で、大人が子どもの生きるモデルであるためには、大人自身の倫理観や規範意識を見直さなくてはならない。また、親としてだけでなく一人の大人として地域の子どもの育てるという視点は、今後より重要となると考えられる。

栗坪委員 : 毎年、地域の子どものホームステイさせているが、受け入れている人は同じ人である。地域が重要と言われているわりには、行事な

どを行なう場合に参加者や協力者は限られている。また、ホームステイに来ている子どもを見て、基本的な生活習慣や協調性が年々不足していると感じる。少子化の影響だろうか。

青柳委員 : 協調性の不足に関しては、社会化が十分行なわれていないためだと考えられる。社会化については、家庭だけで行なえるものではなく、幼稚園・保育所、地域なども関係している。それらと連携・協力する体制を構築することが必要ではないか。

毎澤委員 : 学校の現状は、保護者の価値観が多様化している中、説明責任も求められている。また、家庭や地域で担っていた役割まで求められ、学校の役割が膨らんでいると感じている。そのような中、学校は、様々な事業を地域と連携・協力して行なっているが、地域においては活動する人が高齢化しており、その活動を引き継ぐ世代がいないなどの問題もあるようである。

栗坪委員 : 問題を抱える子どもが増えており、地域活動だけでなく、専門家による対応も重要となってきたと感じている。そのような場合は、公的機関などによる対応が必要なのではないか。

小林委員 : 学校は、地域社会の様々な子どもが集まる唯一の場であり、ここでの問題は現在の子どもの状況を表している。

現在、個々の子どもが様々な問題を抱えており、それに対応する社会システムが十分構築されていない。地域や家庭とのネットワークをいかすために、行政が子育て支援センターなどを学校内につくるなどもっと柔軟な対応が必要ではないか。

麦倉委員 : 今の子どもには、体験に伴う実感が欠けているため、問題を抱えてしまうのではないか。大人が先回りして何でもやってしまうので、失敗や痛みを通じて「学ぶ」という機会がなくなっている。失敗や痛みにより、「思いやり」が育つため、ゲームなどで遊んでいては、思いやりやコミュニケーション能力は育たない。そのため、体験を重視した人づくりを行うべきではないか。

中村委員 : 私も情報化との関係で、子どもの実体験が不足していると感じている。それとともに、大人が提供する無差別の情報により、大人社会の悪影響を直接受けてしまっていることに対し、危機感を感じる。

高橋委員 : 地域活動に協力してくれる人が固定化してしまっているため、負担となっている。もっと、多くの人に少しずつでも協力してもらえれば、地域活動は充実すると思う。

加藤委員 : 問題点を解決するための役割を示すだけではなく、もっと子どもの可能性を伸ばせるような夢のある部分もビジョンとして示してはどうか。

佐々木委員 : 地域活動の事例を紹介したい。自治会で学校内キャンプを企画したところ、学校の協力も得て、130名と予定以上の参加者が集まった。自治会では、人手が不足したので、各家庭に協力を求めたところ、父親も参加し、手伝ってくれた。キャンプでは、異年齢の交流もでき、親の顔も見え大成功であった。その後も「おやじの会」として、地区の文化祭など様々な行事に参加してくれている。このような形で地域全体で協力することが、今後、さらに必要となると感じている。

2 今後の社会変化と身につけたい資質能力について

青柳委員 : 現在、社会が階層化している中で様々な問題が起きている。また、そのような中、家族の形態が多様化している。その点も踏まえ、社会変化を表現して欲しい。

小林委員 : 本県では、十代の妊娠中絶や不登校、虐待件数が多いなどの問題点がある。また、臨床心理士として相談を受けても感じるが、様々な問題を抱え、自分を抑圧している子どもが増えている。そういった子どもも含めて、どう育んでいけるかという視点もいれるべきではないか。

渡辺委員 : 企業でも個人でも、倫理観が欠けていることによる問題が出てきている。規律を守るなどの倫理観もこれから必要な資質能力に加えて欲しい。

船津委員 : 社会変化では、少子化による労働力不足により、国際化は、ますます進展するため、20年後には、交流するだけでなく、外国の人々との共生が必要となると考えられる。

また、身につけたい力では、「自己責任への態度」とあるが、その前提として、状況に応じた危機管理能力の育成も必要ではないか。

藤沼委員 : 現在の教育の中で欠けているものは、お金に関する部分ではないか。「相手に与えた満足が、対価としてお金となる」と考えれば、人間形成能力などにつながると思う。また、お金がないから不幸なのではなく、生き方により幸福を感じられると思う。これからは、収入の格差が大きくなると思われるので、こういった視点からも、議

論することも大切ではないか。

青柳委員 : これからどういった社会をつくっていくのか、また、どういった社会が望ましいのかを踏まえ、「今後の社会変化と身につけたい資質能力」を考えるべきだと思う。また、苦しみや挫折のなかで、人生の意味を見出せるような教育も必要だと思う。

3 基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための方策について

青柳委員 : 21世紀のキーワードは、「対話」であると考えている。創造性や国際性、また、世代間においても「対話」は今後、ますます重要となるので、基本理念等に入れてはどうか。

菊池教育企画課長 : 現在の問題点は、対話能力の欠如が大きな原因であると考えているので、「理念を支える5つの力」に盛り込んでいきたい。

毎澤委員 : 基本目標を見ると、現在、学校教育で指摘されている内容が大部分であると思う。20年後の人づくりであれば、先ほど議論された倫理観なども加えた全世代で共有できる目標としなくては、市民の理解を得られないのではないか。

若林委員 : 基本理念等に宇都宮市らしさを表現してはどうか。いままでの価値観がくずれている。そのため、宇都宮市独自の視点で、人づくりを議論し、その普遍的な部分を基本理念とするべきではないか。

栗坪委員 : 人のあるべき姿というのは、大きく変化することはなく、普遍的な部分が大きいと思う。そのため、資質能力や基本目標に、独自性を入れ込むのは難しいのではないか。

社会変化により変わるのは、人づくりのために、それぞれがどのように関わっていくのかという部分であり、独自性は、地域の素材を活かし、どう人づくりをしていくのかという方法の部分で出すべきであると思う。

船津委員 : 少子化への対応や幼児教育の振興の観点で、企業の役割の中に、父親が子育てに参加しやすい環境をつくるために、経営者に対しての具体的な目標を掲げる必要がある。

4 その他

石井委員 : 市民と共有するための理念とするには、より分かりやすく、語りかけるような表現とする必要があると思う。